

# いなづま

発行所 函館地方電気工業協同組合

住所 函館市新川町31番11号

編集人 荒井孝一

印刷所 有限会社 豊国堂印刷



昭和44年度新年宴会(44.1.28. 於 大和)

厳寒の候組合員各位は益々ご壮健の事と存じます。その後の活動状況についてお知らせ致します。

一、第八回役員会議事抜粋(12月17日) 組合業務のうち外線協議会に関する事項について専門委員を指名し、主に北電側を交渉する任務を附与することになり、委員として、「樺電、共栄、旭、荒井、谷(義)」の五氏と決定(其の他略)。

二、第九回役員会議事抜粋(1月14日) ◎材料の一部共同購入について 工事単価の値上げに伴い高圧ビンがいし用防護金具(那須産業)外二点が業者持ちとなりましたので、今般組合で一括購入の上単価九円(全道一円)で販売しています。但し金具のみ。

◎二階会議室の使用料について 組合業務以外の目的に使用したときは、壱千円を使用料として徴収することとなりました。

◎「子メーター」の価格を本日より壱千九百円とする。

◎小寺理事長の入院について 精密検査と療養のため1月9日函病に入院相当期間安静を要するの甚だ勝手乍ら当分の間お見舞のための訪問はご遠慮願うこととしましたのでご了承下さい。其の他略。

三、第拾回役員会議事抜粋(2月17日) ◎技能五輪道大会の結果について 去る1月19日函館地方予選は、20名参加の上日吉町総訓において、道大会は2月9日小樽銭函北海道総訓において22名参加(函館より5名)し行なわれましたが課題が相当難問で函館は5位にとどまりましたが、1位と5位の差は僅か5点であり接戦を演じました。(西川電気松田

## 組合だより

正志君19才)。

引卒監督として森谷勇一氏にお願いし、本人は風邪を押して前後3日間にわたってご奮闘下されほんとうにご苦労様でした。道大会競技委員伊東幾郎氏の感想では函館勢が一番服装態度も統制がとれてよかったということで平素の教育訓練の効果はこういう時に顕現されるものだと言われました。因みに1位苫小牧2位北見3位室蘭4位北見でした。

昨年は全国大会に当組合より派遣しましたので来年こそと担当者は意気こんでいます。

◎最近電気資材の管理が十分でなく盗難被害が出ているので更に一層管理面に留意して欲しい旨の北電の公文書を紹介しました。

◎北電児玉営業課長が来所し席上「組合と電力の連繫を更に緊密したいのでよろしく協力ありたい」との挨拶がありました。

◎工業組合の年度通常総代会が2月24日に開催され更に活動を活性化することとなりました。詳細は次号で

◎出張所の開設について 在福島石島工事店及在厚沢部松山電気工業が夫々亀田町赤川通199・亀田町富岡180に出張所を開設したいという申請があり審議の結果「名義貸行為が発生しないよう」注意の上許可することとなる。◎工藤理事が先に提案していた「標準料

金のPRの方法について」更めて主旨説明を行ない先ず話し合いの場をつくる前提として、特に市内組合員を「数ブロック」に分けて相互の意見交換話し合いをすることとし、細部については同理事外に研究の上草案を提出するよう命ぜらる

◎事務局職員人事について 昭和40年6月より勤務の姫谷徳江職員一身上の都合により2月28日で退職することとなり、後任として男子職員を採用し事務処理能力を強化する予定です。

◎かねてご協力により保有活線防具数を調査中でしたが、今般109事業所分でまともなもので北電に通知の上耐圧試験関係の資料としました。

四、外線協議会総会について 冬期総会を2月10日銀座「うしろ」で開催し26名出席の上「作業車輛の駐車禁止地帯の作業駐車について」外数件について具体的に検討の後午後4時30分より北電配電経理両課長配電工事係長資材係長及作業所長臨時の上此等の案件について交渉談話を行ないました。尚未討議の諸件については別に北電側と接しようの予定です。

五、其の他 全国版「内線規定」、北海道版各一冊計760円全組合員要必携のもので未受領の方は速かに引取り下さい。尚1月28日午後5時より恒例により「湯の川ヤマト」において新年宴会を盛大に行ない組合員98人北電来賓5人が出席されました。記念写真未受領の方はお引取り下さい。1枚200円負担していただきます組合融資の申込は当月が初めて2口となりました。毎月14日メ切りで審議終了次第成るべく早目に融資するよう手続を進めています。

新規組合員の紹介1.昭和電設工事KK代表佐々木清志氏(富岡電51-7957)  
 2.岩本電気商会代表岩本明博氏(宝来町電23-3721) 3.三幸電気工業所代表古田信勝氏(北松山) 4.株式会社北電工業代表小林幸男氏(港電51-1359) 5.巴電工舎代表加藤幸雄氏(堀川町55-6938)  
 6.白川電気商会代表白川茂氏(の場町電51-0066) 7.相沼電気工業所代表印輪六郎氏(熊石町電館平16)。以上7社で12

月に加入し向う1年間は準組合員の資格となっており十分に体質を整備する期間であります。  
 訓練所関係 1月より冬期訓練を開催していますが、4月には第3第2両学年生が同時に夫々電路工電工として修了退所の予定です。最終学期を心おきなく円満に終えるよう事業主指導員訓練生各位のご協力をお願いします。  
 尚新卒中学生及高校生の激減により新年

度は1年生の確保が難しい段階を予想しますので、若年中高年令者を問わず電気工事上の資格取得を希望する者及技術の向上を目覚す者又将来指導員を心ざす人は遠慮なくどしどし応募下さい。  
 3月中旬より4月中旬までを募集期間としますが、別に案内状を差し上げますからその節はよろしくお願い致します。  
 以上要旨をお伝え致しますが、春の兆を前に十分に夫々精励下さい。(横田)

### 私の健康法

川口電気株式会社 川口素弘



戦后育った大半の青年の肉体的虚弱さ(柄丈はやたらにデカイ)精神的貧弱さ(理屈丈は一人前)には目を覆うばかりである。心と体の関係は一体不可分のものである筈そこに無軌道な

行動や行為が展開され、理性を知らぬ悲惨な結末が待ち受けている。私は彼等に健全な精神は健全な身体に宿る、と言う考え方を正しく理解して欲しいと痛感する。万物の霊長である吾々人間は精神的な強さと肉体の壮健さを常に求めなければならず、そしてその何れも即ち心も体もバランスがとれていなければならぬ。仮に病に倒れた時は精神力で回復させ、心に受けたショックは強じんな体力で克服すべきと思う。生来私は長男の末子で育ち、ひ弱なたちであつた様だが、心丈夫な母が私に「身一心一統道」とも言うべき、男らしい生きる道を教えて呉れそれはスポーツを奨励し、それを通じて心を常に明るく正しく持ち人生を積極打合せようと言う事である。お蔭で私は今迄にはほとんどのスポーツを経験している野球、柔道、唐手、蹴球、羽球等々を経て今はゴルフである。勿論極力ウイークデーは仕事一筋に励み早朝か休日コースを廻る訳であるが最近時間の配分に苦慮しており、ゴルフの頻度が高まれば母の苦言も又しきりである。但し目的は身体の壮健にし健全な精神を養い社会的責任ある企業人としての人格形成であればおのずとその限度もわかまなければならぬのである。今一つの健康法は毎朝コップ一杯の野菜ジュースを飲む事であり、これは既二、三年間欠かさず続けている。材料は人参を中心に、リンゴ、セロリ等季節に応じてとり入れ最後に蜂蜜で味付けをしたもので吾家独得のものである。これをやっていると一切の保健剤ビタミン剤は不要である。又寒中でも洗顔は必ず冷水を用い、風呂から上る時は冷水のシャワーを浴びる等々免角生れつき弱かった私が毎日健康で愉快に働いていられるのは色々な健康法に依るものと信じている。

### 私の思い出 河合保久



大正4年八雲町に生れ小学校卒業後上京致し早稲田高等工業電気科卒業東芝電気株式会社に昭和10年入社変圧器試験をやりました。昭和14年奉天工場に転任受信用真空管の製作に従事致しました。工員は満洲人に朝鮮人で、言葉が判らなく通やく付きました。通やくは朝人のタイピストでした。退社後タイピストと奉天の街を散歩した思い出もあります。昭和19年応召大東亜戦争に参加しました。然しなれない軍隊生活でしたため、健康を害し病床に伏す身となりました。昭和20年の終戦は日光の療養所で迎えました。郷里八雲へ復員致し昭和22年現在地にささやかな店を開き現在に至っております。

趣味は在満当時は随分マージャンをやりました。土曜日の晩は徹夜で朝迄やった事もしばしばでした。然し現在ではマージャン等は一切止めました。晩酌2合程度を楽しみに働いております。

### 交通安全について

最近ではあらゆる機関をあげて交通安全対策にとりくみ安全施設も整備されておりますが交通事故は減らないばかりか年々増加し痛ましい犠牲者も年を追うて増えるという残念な状態です。昨年の全国の数をみていると37分間に1人が交通事故で死亡し40秒に1人が怪我をしており1年間に82万7千人の死傷者という史上最高の暗い記録をつくっています。  
 こうした交通事故による被害者の救済は、自動車に対する強制保険任意保険などで補償されるしくみになっておりますが、損害賠償についての話し合いは短期間に解決しない場合が多くこの間の医療費の支払いや、生活費に窮しているのが一般の実情です。次に私は昨年の函館中央署管内の交通事故による発生状況について表にして報告致します。

管内市町村別交通事故発生(死傷者)状況 (前年対比)

区分	件数			死者			傷者		
	43年	42年	増減 %	43年	42年	増減 %	43年	42年	増減 %
市町村別									
函館市	1,289	937	+35.2 37.6	14	17	-16.6 3	1,586	1,084	+46.3 50.2
上磯町	103	83	+20.1 24.1	2	2		121	100	+21.0 21.0
亀田町	164	103	+59.2 61	3	1	+200.0 2	204	120	+68.6 83
大野町	33	24	+37.5 9	2	1	+100.0 1	43	30	+43.3 13
七飯町	97	79	+22.8 18	6	7	-14.3 1	123	94	+30.9 29
戸井町	19	11	+72.7 8	2		+2	20	14	+42.9 6
尻岸内町	12	24	-50.0 12				14	31	-27
鍛法華村	1	1					1	1	
計	1,718	1,262	+45.6 45.6	29	28	+1	2,112	1,475	+63.7 63.7

函館方面	2,282	1,732	+55.0 31.8	66	59	+11.9 7	2,801	2,050	+36.6 75.1
全道	23,440	15,900	+75.4 47.4	755	656	+15.1 99	31,987	20,640	+55.0 11,446

以上となっています。

(佐々木三男)

【一日安全運動】

- 一、互譲の精神で安全運転する日
- 一、スリップを防止して安全運転する日
- 一、歩行者保護に徹し安全運転する日
- 一、合図を確実に励行する日

一、スタート、バック時における車輛の周囲を確認する日  
 道路運送車輛法第43条の二、非常信号用具の備付について。  
 新規規正対象車輛（全車但し側車付二輪車、大型特種自動車、小型特種自動車及

非けん引自動車を除く）適用の時期、44.4.1より在来車（普通車及乗用車）44.10.1より  
 その他の在来車は45.4.1より信号用具は当分の間懐中電灯のレンズの部分赤くしたものでよい。（佐々木三男）

「地方だより」

【八雲地区の皆さん】 工藤 義一

1969年の新春も早一ヶ月を過ぎ、早春とは言え寒波きびしい2月初旬昨夜来の暴風雪は、道東、道北の交通を完全にストップさせてしまった。此の日、我々取材班は予定通り八雲地区取材のため出発をしました。急行で1時間半、酪農



の地八雲駅に到着。吹雪で一寸先も見えぬ八雲の町並を見る事もなく、八雲館にかけ込みました。

開町100年の祝典を、昨年行ったと言う八雲町は、明治年初、旧尾洲藩主、徳川慶勝公が旧臣に職を与えるため、払下げを受けて入植し、徳川農場を造ったのである。この農場では、30年前にトラクターを導入し、近代農業の先端を走っていたのである。

八雲の名の由来は、古事記中にその字が始めて見られる。「八雲たつ 出雲八重垣 妻籠に 八重垣つくる その八重垣を」の歌に起原し、雲が湧き上る時の情景、薄曇りの日が多いのと今もマイホーム建設の意気込みから名付けられた様です。此の薄曇りの日が多いという事が乳牛を飼育するに最適なので酪農を盛んにしたとの事である。

農産物の中でも、馬鈴薯とてんぷんは北海道中最も早くから発達した所である。近くには、徳川公園、銀婚場などがあり、ニジマス養殖場では、観光客に其の場でサンミ、天ぷら等を喰べさせてくれる。

春夏は、とくにのどかな放牧場でピクニックを楽しむ家族連も多いとの事皆様も是非一度お出下さい。

では、組合員の紹介といきましょう。

(有)岡田電気商会 岡田辰之助氏 岡田氏は大正6年函館水電KKを振り出しに、50年有余の間電気一筋に生きて来た

エレキマンである。昭和30年北電八雲営業所長を退き、家電販売と工事の店を開業、現在は息子さんが中心となって、手広くやっております。氏は工事組合の理事であり、地区組合の良き相談相手として人望を高めておられます。

鈴木電気商会 鈴木実氏 鈴木氏は昨日出張工事に出かけて残念乍ら取材出来ませんでした。

八雲電機社 河合保久氏 河合氏は早稲田高等工業学校電気科卒業後、東京芝浦電気KKに入社、応召、復員と戦時中を過し八雲農協に入社、其の後昭和22年八雲電機社を開設、現在家電販売と工事を経営し、電工さんは3名おられます。

後藤電機商会 後藤又蔵氏 後藤氏は昭和22年頃、今金町にあった東邦電気に電工見習として入社、当時の若松、フトロ方面の農電工事で腕を磨き27年八雲雪印工場の電気係に勤務、農電工事に見染めた瀬棚美人と結婚、41年組合に加入、電工3名と御主人は工事を、奥さんは家電販売と集金を担当し意気盛んにやっております。

(有)岩越電機商会 岩越信さん 昭和42年5月急死された岩越氏の奥さんが現社長として、家電販売と工事を経営しております。岩越電機は、八雲電機社より分離して独立、外線工事を主力として、かなりの実績を持ち、現在実弟が工事責任者として、15名の電工を擁し、八雲地区の外線を一手に引受けております。

正電社 祝田松利氏 祝田氏は八雲中学校の教員在職中実弟が工事組合認定を前にして、急死されたので、故人の意志をついで、教職を退き、昭和43年認定業者となり、お店はナンショナル製品販売店と日立製品販売店の二店を経営、八雲町内でもにぎやかな通りで盛大に事業をしております。

小沢電気商会 小沢昭一氏 小沢氏は発変電畑を歩いた方で岡田電気に勤務、昭和43年認定業者となり、電工3名を有し地区組合員の外線関係工事を引受け、張切って事業に励んでおられます。以上7店の組合員は、岡田理事を中心として、八雲地方電気工事組合を結成親睦の内に協力し合って、仲良く団結をしております。

北電の大支店制による、機構改革の一端として、八雲に大営業所が出来た事になり、昨年末2,300万円を投じて立派な新仕屋が完成しております。

八雲営業所は、森、長万部、静狩をかかえた、大営業所として、発足するべく温風暖房のきいた事務所は、近く着任するであらう新しい人々を心待ちしている様でした。益々希望のある都市となりつつある八雲地区の皆様は、来るべき最盛期をいまやおそしと待期しております。一夜明けた八雲の町は、相変ずの吹雪雪害のため、列車の運行は不順、ようやくたどり着いた汽車ポツポに飛乗って帰途に着きました。

取材のために御骨折りました事を紙上をかりて厚く御礼申し上げます。

「安全に就いて」 配電課長 小野正夫

一枚きりの片道切符を持った旅が人生であると云はれる。しかもその切符には、行先が書いてない。何時、何処で不慮の災害のため下車が決められ、一旦下車すれば、それで総てが終りになるわけである。考えてみれば、まことに心細い限りであるが、それだけに何よりも大切にしなければならぬのは、命である。安全とは命を大切にすることである。安全帽を着けていたため、柱上よりの落下物が頭に当たったのに、かすり傷一つうけなかった経験のある人は、相当数あると思う。世の中が、進歩するに伴って我々の周囲には、危険が一ぱいになってくるその中で一枚の切符を

大切にするには、先づ安全を計ることである。そして安全の第一歩は、服装である。正しい服装により精神的にも引き締り、作業と安全への意欲も湧いてくる。そしてその成果である仕事の仕上りも、立派なものになるはずである。安全については、皆さん既に充分御承知のことと思うが、たまたま現場で実行を伴はない場面を見て、はっとすることがあるのは、何故だらう、安全と仕事結びついていないためであると思う。

仕事の中に安全があり、安全の中に仕事があると云うことを、銘記していただきたい。そして安全とは自ら行うことであることも、最後に安全への第一歩として安全帽の完全着用を強くお願いしたい。

『一枚きりの切符を大切に』。

◎私の履歴◎ (有)岡田電気商会 岡田辰之助



私は明治33年5月5日に生れた。丁度節句の日にあたるので、誕生日になると空に林立する吹流しや、鯉のぼりを見て母はこういったものだ。「お前は幸せもんだ、日本中の人々が祝ってくれるものなあ」と。家は東川町の有江鉄工場の裏手にあった。明治40年8月、近所の石鹼工場から出火、この火災が後年明治の函館大火といわれた程であったが私の大半が焼けた。私達も家財は勿論何ひとつ出さず焼けた。避難するの

が精いっぱい。今の様に生活保障などない時代で、労働者は夏に働いて冬に備えるのが常であり、私なども尋常科4年5年の夏休みには船舶のボイラー掃除に函館ドックに通ったものだ。ボイラーの錆を落して塗り替えるのだが、衣類はもとより顔も手も真黒になり、カンカン虫とよばれたものだ。大正4年尋常科をへてからは、農家の手伝い、左官の土ぬり、土工などして働いて家計を助けたが一向に楽にならなかった。大正6年9月、三好吉助という人の世話で函館水電株式会社へ内線工見習として入社した。本社は末広町十字街の角にあって内線外線と別れていた。内線には40人位いた。毎日材料を積んだ大八車を引いた。坂へ上るにも手をかかそうとはしない。万事がその様であったがよく頑張通した。仕事を覚えるにつれてよく働いた。当時は請負工事業者は市内で、弘電社、三共工事会社の二軒だけ屋内工事はほとんど直営で行なわれ、残業は毎日の様であった。大正10年4月組長を命ぜられ念願の組をもつ様になった。21才の時である。之を契機に元来の負けず根生で働らき続

【組合員の横顔】 北斗電気KK 竹内八郎



「皆さんの経営の参考になる様な特別の事は何もしておりませんので、」と謙遜されるが、函館電気業界のトップを占める北斗電気の社長であり、市内有数の優良商社の経営者として活躍されている竹内さんの事は、既に衆知の事と思われまふ。この様に発展の途を辿る迄には吾々の及ばない苦労と努力の連続であったと云えましよう。

現在地十字街に於いて開業したのが昭和3年で、昨年は目出たく創立40周年記念式を催したそうで、現在の体制は第1部(市内販売部門)第2部(地方営業部門)第3部(陸上船舶強電弱電部門)の事業部制を布き、各部独立採算で、従業員数、10名という大世帯です。「今年売上15億を目標としております」と抱負の一端を示し「タイト満々の様です。昭和3年札幌、仙台が開局されたのに続き函館も7年よりラジオが売られ出しましたが、当時の水電会社でラジオの販売をやっており、会社から買うと昼間線の工事が無料サービスということで、私共のラジオの売れ行はサツパリという事もありました。何しろラジオが約10円で工事費が5円前後というのですから、市内のラジオ店から買って工事費を負担するという客はいないのが当然です。」とその頃の思い出を語り、「先程駅前店を出した事について店頭価格が格安な事で、業者のかたの風当たりが強い様ですが、地元の人誰かがやらなければ、他都市からの進出を招く事となり、大きな混乱を生じかねない実行きであったので、色々面倒な問題があるのですが、踏切った訳です」との事。

「吾々は最悪の場合の切り抜け策と常日頃考えている事が最も大事な事で、後はその時々業務に最善をつくす事でしょうね。例えば火災とか終戦の混乱期の対処などはその例で、昭和9年函館大火の時は私の店も焼け、商品はすべて灰となりましたが、振り出しからやり直すという決意が、メーカーに誠意をみとめられて、苦境を脱する事が出来ました、下手な駆引きや目先の利益を追うのは無用な事ですね」と経営の心構えを洩らしました。お宅を訪問した時は折悪く、風邪気味で咳がはげしく、お疲れの様で、色々思い出話を伺う事が出来ず、道楽、エピソード等御紹介出来ない事を残念に思い乍ら辞去しました。

函館生れ、現在奥さんと高校在学中の御子息の3人家族で、住まいは谷地頭市営温泉上の高台にあり、完全な程の防寒設備の整った近代的な建物です。(駒井)

けた。能率の単位であるといわれたのもこの頃であった。

当時函館の電気工事は道内でも優秀であった。それでも毎年の様に通産局から工事検査に来られた。後で電力部施設課長になられた酒井陽桑さんにもよく随行して悪い箇所を指摘されたものだ。又地方の大小の工事には選ばれてよく出張させられた中でも大正15年尾村部村、今の南茅部町の新設工事昭和4年の駒ヶ岳噴火で茅部村の全滅の復旧工事等は特に印象に残っている。昭和5年傍係の恵山電気株式会社へ出向、8年は私の最悪の年であった。2月産後の日立が悪く函館で療養中の妻が死亡三日おいて父も脳溢血で倒れ、3月には函館大火で家は全焼一度に不幸が訪れた。9年10月工事長辞令と共に戸井電業所主任戸井変電所を兼務、10年札幌で行なわれた第一回の工事士試験パス、17年11月八雲電業所長、八雲変電所今金変電所八雲保線区主任兼務22年変電所保線区兼務を解かれる。この間昭和18年大東亜戦争の後、八雲飛行場建設要地内に編入になった八雲変電所の移転、今金、相沼内、八雲の各送電所の移設又戦後の於ける農村電化工事の設計函館一号線の設計等、ゲートルに地下足袋の毎日であった。30年5月函館水電帝国電力大日本電力北海道配電と37年9ヶ月にわたる勤務を停年退職する。同年6月退職手当を元に電気請負工事に発足開業の時函館支店長であった四ツ柳さんがわざわざ八雲まで来られて激励されたことを今も感銘している。店をもってから背水の陣を布いた積りと経験を生かし働らき通して傍わら電化品の販売を兼務、33年1月資本金50万円をもって有限会社を設立、41年6月落部市に支店を設ける。同年8月この道に就いて満50年を迎え内祝感激を新とした。同年9月資本金200万円に増資私もいつの間にかやら土に親しみ風月を友とする年令になった。時折の旅行と現場廻りをするのが今の楽しみである。趣味、将棋、読書、俳句近作一句「わかめはすりの手あかく春あさし」不味

【奥様訪問】 【後藤電機商会】 後藤夫人



奥様訪問も回を重ね今回は始めて郡部へ出て八雲は後藤電機商会へ伺った郡部の電気工事に多い形態で工事と家電販売を兼ね、奥様は店に在って家電の販売担当で御主人は工事で現場廻りと云う方式で後藤電機商会も大変お忙しい様です。家電機器が整然と陳列された店の奥、応接室を兼ねたダイニングルームでお話を伺いました。昼間は御主人は工事関係でほとんど不在家電販売と工事の取次は奥様の専業です。

「大きなものは主人が決めますが私はむしろ炊飯器やアイロン等小物の方が得意です」「商売の苦勞は何処でも同じでしょうが何しろ商品の機種が多くて型や価格を憶えるのが大変でした。横文字には弱いものですから」と冗談を云っておられる。今金方面に通じる幹線道路に面し都心を少し外れている地理的条件もあって比較的近在農家のお客が多いせいか回収等もよいそうである。「他の店の近くはこれ位だとハツタリをきかして値引を迫るお客もありますが私共は一定以上は値引しません」笑顔で多才なくお客をマイペースにまきこむ様です。「忙しい商売で夜でも以前売った商品の故障等の電話がかかってその都度出掛けねばならないので主人も大変なんです」と仕事にも強いが酒にも強い御主人に少し心配顔です。永い期間、工事会社の勤めから一転して此処へ店舗を構え商売に入ってから此の6月で丁度4周年との事で、奥様はビチビチと立働いておられます。北松山町若松の出身。戦後昭和23、4年頃は若松附近の農村地帯は電化の時期で当時の朴訥な農家の人達の目には街から来た文明の使者で「電気屋さん」はさながら異邦人の如くに映り、腰には七ツ道具を下げ中には首に粹なマフラーを巻きつけた若者もあって、如何にも颯爽とみえた様でそんな姿を農作の合間に、又は畦道の途中で日除けのネツカチーフの中からソツと盗見していた村の娘達の中に現在の奥様もいた様です。「何しろ電気屋さんが神様とか云った位で仕事が終わると床の間を背に先づは濁酒とあとはギンメツを腹一杯に食させて下にもおかぬもてなしの時代でした」と奥様は御主人との出合いの頃を想い出されてか少しテレ気味です。仕事一筋のまじめな好青年に奥様の方から見染められたのですが形としてはお見合との事です。高校1年を頭に小学校6年3年と3人のお嬢さんで家事の方は何かと手助けになっている様に見受けられました。趣味は盆栽の由で忙しい仕事の合間に手入れをするのが楽しみで、草花等は冬期間には畑へ埋めて置き春に出して育てるのだそうです。成程色々見せて頂いた写真の中で見事に満開のつつじの真白い花と並んで写っている奥様の笑顔が印象的でした。(吉田要)